

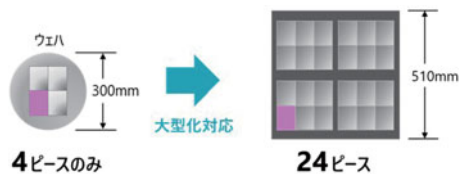
次世代半導体パッケージのコンソーシアム「JOINT3」に参画

当社は(株)レゾナックが設立した次世代半導体パッケージのコンソーシアム「JOINT3」に参画しました。JOINT3では、半導体材料・装置・設計の分野における世界トップクラスの企業が集結し、パネルレベル有機インターポザーに適した材料・装置・設計ツールの開発を推進します。半導体製造の後工程で使用される各種高機能テープや関連装置を手がけてきた当社は現在、次世代パッケージに関わる技術の確立にも注力しており、その一環として、JOINT3への参画を決めました。



次世代半導体においては、後工程のパッケージング技術がキーテクノロジーの一つとなっています。中でも、複数の半導体チップを並列に配置し、インターポザー(中間基板)を介して接続し実装した2.xDパッケージは、さらに需要が拡大する見込みです。インターポザーは、半導体の性能向上に伴いそのサイズが大型化しており、シリコンインターポザーから有機材料を用いた有機インターポザーへの移行が進んでいます。製造方法は、円形ウェハから四角片を切り出す手法が主流ですが、サイズの大型化に伴い、ウェハあたりのインターポザーの取り数が減少する課題が生じています。この課題に対処するため、円形のウェハから四角いパネル形状へ変更し、取り数を増加させる製造方法が注目されています。

当社はJOINT3において、これまで培ってきた粘着技術や装置技術をベースに、他の参画企業と連携しながら新たな独自技術の創出にも取り組み、技術と技術を高次元で融合させることで、半導体実装技術のさらなる発展に貢献します。



JOINT3の概要

目的：参画企業との共創により、パネルレベル有機インターポザーに適した材料・装置・設計ツールの開発を加速

参画企業：27社(2025年9月3日時点)

活動内容：・パネルレベル(515×510mm)の試作ラインを用いて、有機インターポザー向けの材料・装置・設計ツールを開発
・材料・装置メーカーが共通の試作品を作製し、共創により開発を進める
・技術・装置メーカーがJOINT3を「練習場」とし、パネルレベル有機インターポザーに関する技術を磨く

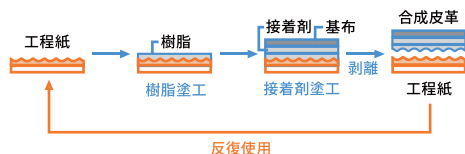
拡販を進める合成皮革用工程紙にフォーカス！

▶ 製造工程で剥がされる紙

かばんや靴、衣服や家具など幅広い用途で使用される合成皮革。この合成皮革の製造工程で、表面に柄をつける型紙の役割を担うのが、合成皮革用工程紙です。工程紙の上に樹脂を塗って基布を貼り合わせ、乾燥後に工程紙を剥がすことで柄を転写します。工程紙には柄の意匠性はもちろん、適度な剥離性や、繰り返し使用するための耐久性などが求められます。直接皆様の目に触れることはないものの、合成皮革製品の製造に欠かすことのできない存在となっています。



当社工程紙を使って製造した合成皮革



当社工程紙を使った合成皮革の製造工程
(合成皮革メーカー)

▶ 140種類以上のラインアップで、グローバルに展開

合成皮革はその時々々の流行や、用途、国・地域などで求められる柄が異なります。当社では国内外のお客様とのコミュニケーションや展示会への出展などを通じて、いち早く市場のトレンドやニーズを捉え、生産現場と連携することで、新柄を開発しています。現在、ラインアップは140種類以上に拡大。当社の工程紙は、独自の剥離技術を生かした品質のよさや安定的な供給体制がお客様から高く評価されており、世界でも有数の生産量を誇っています。

Pick Up

合成皮革用工程紙の主力工場の生産能力を増強

当社は合成皮革用工程紙の主力生産拠点である小松島工場(徳島県)に、新規塗工設備を導入しました。高速・高精度で塗工できる最新鋭の機能などが特徴で、生産能力は従来設備の約1.5倍に高まります。昨今、合成皮革は素材としての使いやすさや軽さ、機能性などの観点からも改めて各業界で注目されています。特に自動車の内装用途では、広幅の合成皮革のニーズが高まっており、当社は新規塗工設備の導入により、広幅仕様を中心に工程紙の増産を図ります。新工棟の建設を含めて、約48億円を投じた今回の設備投資を機に、インドや中国、欧州、北米などで合成皮革用工程紙の拡販につなげていきます。



小松島工場の新工棟

個人投資家向け会社説明会に参加

ログミー(株)主催のオンラインでの個人投資家向け会社説明会に参加しました。広報・IR室長の竹内栄一郎が、株式評論家として活躍する坂本慎太郎氏(元ファンドマネジャー)と対談する形式で実施し、当社の会社概要や製品・技術の特徴、今期の連結業績予想などを説明しました。今回のような会社説明会を通じて、当社の知名度向上や新規個人株主の獲得などにつなげていきます。



左からMCの荒井沙織アナウンサー、室長の竹内、坂本氏

会社説明会の動画はこちら ▶



「統合報告書2025」を発行



2025年版の統合報告書を発行しました。当社グループの強みを生かした価値創造の道筋や報告書全体を通じた情報の結合性を意識したほか、投資家の皆様から多く寄せられる質問に応えるコンテンツを拡充しました。持続的成長と事業活動を通じてサステナブルな社会の実現に貢献することを目指す当社グループの姿を説明していますので、ぜひ御覧ください。

当社ホームページの株主・投資家情報サイトから御覧いただけます。



YouTubeの新チャンネルを開設

主に若年層へのPRを目的として、YouTubeに新チャンネル「リントック科学TVプラス」を開設しました。「くっつける」「はがす」「紙をつくる」といった当社のコア技術や製品について、実験などを通じて面白く、分かりやすく紹介しています。“科学のチカラ”を再発見できる、見て、楽しんで当社を身近に感じていただけるチャンネルです。



新チャンネルはこちら ▶



アンケート 結果のご報告



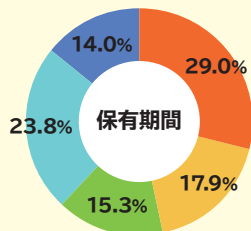
読者アンケートへのご協力 ありがとうございました



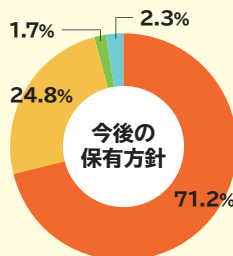
「LINTEC WAVE」第97号(2025年6月発行)で皆様にご協力をお願いしたアンケートでは、過去最高となる合計1,816件のご回答を頂きました。アンケートの集計結果やお寄せいただいた貴重なご意見・ご要望を基に、今後も一層の経営強化やIR活動の充実に努めてまいります。

回答者の株式保有期間と今後の保有方針について

長期保有者が半分近くを占める一方、1年未満の短期保有者も前年と比べると増加する傾向が見られました。また、95%以上の方が「現状のまま継続保有」あるいは「買い増しして継続保有」をお考えです。



- 10年以上
- 5年～10年未満
- 3年～5年未満
- 1年～3年未満
- 1年未満



- 現状維持
- 買い増し
- 一部売却
- 全て売却予定(もしくは売却済み)

多く頂戴したご意見・ご要望の中から一部をご紹介します

ROE8%以上の水準を目指してほしい

研究開発特集において
研究員の自由な発想を尊重する
姿勢に感銘を受けた

テレビCMなども活用して
社名認知向上に努めてほしい

収益性の改善に向けた
構造改革を評価している

半導体関連事業の
さらなる成長を期待している

将来の発展に寄与する
新事業の創出や
新製品の開発に期待している

………… ご協力ありがとうございました ……………

アンケートにご回答いただいた皆様には、当社高級印刷用紙「ニューアージュ CoC」を使用した2026年版当社オリジナルカレンダーをお送りさせていただきました。今回は、鮮やかで生命力あふれる変化に富んだ色彩が織りなす、サステナブルな未来への輝きに満ちた光景を写真に収めた、ドイツ出身のフランク・クラマー氏の作品集です。

